

十勝岳

○過去3回の噴火活動に先行する異常現象の時系列

十勝岳の過去3回の噴火活動(1926年, 1962年, 1988-89年)では表面熱活動の活発化などの前兆現象が知られている。旧磯部跡からの噴気が遠望できるようになったことや、1988年の噴火活動からまもなく20年をむかえることから、過去3回の噴火活動に先だって現れた現象について整理してみた。なお整理にあたっては札幌管区気象台の取りまとめを基にした。

1926年噴火	1988-89年噴火	1988-89年噴火
噴火場所 中央火口丘西側 噴火様式:水蒸気爆発, 中央火口丘崩壊, 岩屑なだれ, 大規模な誘発泥流. 活動期間: 2年8ヶ月 噴出物量 1.3X10 ⁴ m ³	噴火場所 中央火口丘南側湯沼付近 様式:水蒸気爆発で始りスコリア噴火(約30時間)に移行 活動期間 約1ヶ月 噴出物量 7.1X10 ⁷ m ³	噴火場所 62-II火口内 噴火様式 小規模な火砕サージ・火砕流を伴う水蒸気, マグマ水蒸気爆発 活動期間 約4ヶ月(21回) 噴出物量 5.7X10 ⁵ m ³
1926年 12月16日62-II火口から噴火 11月有感地震(最大震度) 10月有感地震(震源:山頂部)	1962年 6月29日中央火口南側湯沼付近から噴火 5月末から有感地震活動 大正火口で3月から噴気活動活発化	1988年 12月16日62-II火口から噴火 11月有感地震(最大震度) 10月有感地震(震源:山頂部)
1925年 中央火口丘火口内に大噴火口出現	1961年 大正火口で, 6~7月に硫黄自然発火. 58年-I噴気孔旧噴火火口で10月に弱い水蒸気爆発	1987年
1924年	1960年	1986年
1923年 8月, 湯沼で熔融硫黄が7~8mに噴出 6月, 中央火口丘南側にある湯沼に熔融硫黄の沼が出現	1959年 58年-I噴気孔で, 8月と11月に小爆発	1985年 6月62-I火口内で小爆発, 85-2小火口出現, 硫黄の自然発火. 5月62-I火口内に85-1小火口出現(熱泥噴出)
	1958年 10月小爆発, 58-I噴気孔出現	1984年
	1957年	1983年 62-I火口が噴気活動再開.
	1956年	1982年
	1955年	1981年
	1954年 9月昭和火口で小爆発	1980年
	1953年 6月昭和火口で小爆発	1979年
	1952年 昭和火口(大正火口の北東方にあるスリバチ鉢火口西方斜面)に噴気孔の出現	1978年 62-I火口から噴気.
		1977年
		1976年
		1975年
		1974年 4月62-I火口が噴気活動再開(翌年には衰退).
		1973年
		1972年
		1971年
		1970年
		1968年 有感地震を伴う顕著な火山性地震活動(1969年末まで継続).

主な文献

- 札幌管区気象台(1990):災害時火山現象調査報告書, 昭和63年12月から平成元年3月5日までの十勝岳噴火に関する火山現象
- 勝井義雄(1989):1988年十勝岳火山噴火の推移, 発生機構および社会への影響に関する調査報告書, 突発災害調査研究成果.
- 北海道防災会議(1986):北海道における火山に関する研究報告第11編「十勝岳」補遺
- 北海道防災会議(1971):北海道における火山に関する研究報告第1編「十勝岳」